

機器センターユーザーアンケートについて

改めて言うまでもなく、分子研の大きなミッションとして「共同利用・共同研究の推進」があります。全国の大学や研究所等の研究者に施設の設備は公開され、分子科学コミュニティの研究に寄与しています。機器センターでは、物性計測・化学分析・分光測定に供する汎用測定装置等を維持・管理しています。また機器センターでは、「大学連携研究設備ネットワーク」「ナノテクノロジープラットフォーム事業」、そして令和2年度からデータ構造化と機器共用を目的とする「マテリアル先端リサーチインフラプログラム」が始まっています。これらの事業を通じ、多くの共同利用が行われ、令和2年度は、所外169件1892日(民間等の利用も含む)、所内2057日の実績があります。

コミュニティの意見を運営に反映させるため、機器センターでは共同研究専門委員会、機器センター運営委員会を行い、現状及び将来計画に対する意見を伺っています。加えて、『施設利用者の生の声を取り入れる』ため、実際に利用された所内外の方々にアンケート調査を毎年行っています。この結果を受け、設備の整備・オプションなどの高度化、また機種更新や新規導入を検討しています。実際、オペランド走査型プローブ顕微鏡システム、MALDI-TOF 型質量分析装置、オペランド多目的X線回折装置、熱分析装置(示差走査熱量計・差動型示差熱天秤)などが、機器センターの運営経費や所長裁量経費で整備・更新されています。

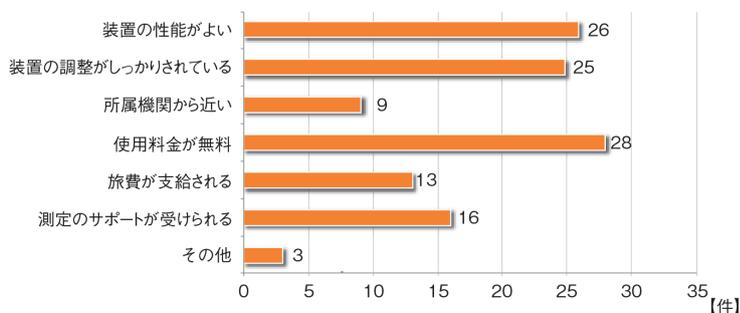
アンケート内容は、「施設利用の回数」「分子研機器センターの施設利用を選んだ理由」「申請・事務手続きの簡便さ」「予約システム」「寒剤供給体制」「機器の満足度」「期待する設備等」「その他要望」など多岐にわたっています。人的サービスやシステムに関しては高い評価を得ています。「期待する設備等」「その他要望」では、電子スピン共鳴装置、SQUID磁束計、単結晶X線回折装置、物理物性測定システム、ピコ秒レーザーなどの更新や高度化の希望が多く上がっています。またこれらの装置を運転するために、ヘリウム液化装置の安定的運用も重要です。これらの装置は高額なのですぐにはご要望にはお応え出来ませんが、概算要求なども行い、早期の更新に繋がるよう尽力しています。また、マテリアル先端リサーチインフラの支援で、以前から要望の多かったパルス/CW電子スピン共鳴装置が、この2021年度に整備される予定です。

各年のアンケート結果の詳細は「機器センターたより」の『交流』部分にあります。<http://ic.ims.ac.jp/tayori.html>

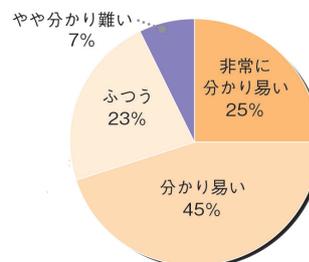
「機器センターたより」は、機器センターの設備のスペックを含めた紹介や使用方法も詳しく載っている実用的な冊子ですので、是非一読頂ければ幸いです。

(中村 敏和 記)

Q2. 当センターの施設利用を利用した理由を2つまで選んでください。



Q3. 申請・事務手続きは分かり易かったですか？



「機器センターたより」No.13 2021 7. 交流 の「所外利用者アンケート報告」より一部抜粋